

私立「神戸英語学校」について

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉浦, 隆 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4868

私立「神戸英語学校」について

学芸学部 国際英語学科 杉浦 隆

要旨：開港後、明治 20 年代までには神戸にさまざまな英語学校が設立された。設立から数年で廃止、廃校に至る例も多く、「神戸英語学校」もそのような学校の一つであった。同校は基督教青年会から運営を引き継いだ後、新しい校舎も建築した。しかしながら、不十分な教育体制が疑われる中で、学校運営に行き詰まった。その設立、廃止の経緯を詳細に調べると、基督教青年会（現 YMCA）とのつながりがあったこと、また、学校廃止後も同団体によって別の形で継承されていたことが明らかとなった。

キーワード：神戸、明治、英語教育、基督教青年会

0. はじめに

明治 20 年代までには神戸にさまざまな英語学校、英語教育施設が設立されていたことは、杉浦 (2022) で指摘のとおりである。その多くは学校史を編纂できるほどの歴史を持たぬまま、数年で廃止、廃絶に至った。

本稿ではそのような学校の中で「神戸英語学校」を取り上げる。同校は 1887 (明治 20) 年に設立され、1890 (明治 23) 年には早くも廃止されている。基督教青年会とどのような関わりがあったのか、また短時日での設立、廃校の経緯や教育内容の一端を明らかにする。

1. 神戸基督教青年会と神戸英語学会

『神戸と YMCA 百年』によると、神戸基督教青年会 (以下、青年会) は 1886 (明治 19) 年 4 月 19 日に設立されたことがわかる。4 月 22 日の『神戸又新日報』 (以下、『又新』) には次のような記事が掲載されている。

当港耶蘇信徒が首唱にて今回青年会なるものを設け専ら教法上に関するの演説をなして布教に尽力し追って同会に於いてさらに一の学校を立て無謝料にて貧困の人民を教育する方法を計画せんと目下協議なし居ると聞く¹⁾

青年会が設立当初から教育に力を入れる方針であったことが伺える。また、結団後の活動目標を「英語学会」の設立におき、神戸にいる宣教師団に協力を求めている。²⁾

青年会結成後、程なくして、以下の新聞広告が掲出された。

神戸英語学会

来ル十五日 毎夜七時ヨリ十時マテ左ノ処ニ於テ英語研究相始メ候入会希望ノ向ハ至急申込アルベシ

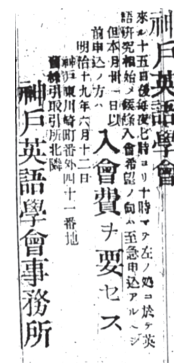
但本月卅一日以前申込ノ方ハ 入会費ヲ要セス

明治十九年六月十二日

神戸東川崎町番外四十一番地

旧株引取引所北隣

神戸英語学会事務所



資料 1 『又新』 (明治 19 年 6 月 15 日)

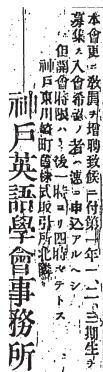
さらに、6 月 17 日には、発会直後の様子がわかる記事が掲載された。

神戸英語学会 此程より広告欄内に見ゆる神戸英語学校はいよいよ一昨夜を以て開会したるが其際既に

入会せるもの五十名其他目下申込の者も少なからずして漸次盛大に至るとき模様を顕せりと³⁾

英語学会員の増加が順調な様子が窺える。また、7月6日には新たな広告を掲出し、教員の増員を明記し、さらに会員を募集している。

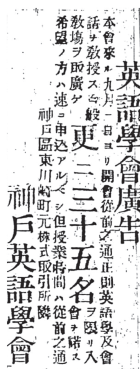
本会更ニ教員ヲ増聘致候ニ付第一年一、二、三期生ヲ募集ス 入会希望ノ者ハ速ニ申込アルベシ
但開会時限ハ後一時ヨリ四時マデトス
神戸東川崎町旧株式取引所北隣
神戸英語学会事務所



資料2 『又新』（明治19年7月6日）

8月26日、27日には35名限定の追加募集広告を掲出した。

本会來ル九月一日ヨリ開会従前ノ通
正則英語学及会話ヲ教授ス 今般教場ヲ取広ゲ
更ニ三十五名ヲ限り入会ヲ諾ス
希望ノ方ハ速ニ申込アルベシ但授業時間ハ従前ノ通
神戸区東川崎町元株式取引所隣
神戸英語学会



資料3 『又新』（明治19年8月26日、27日）

わずか、一月足らずで、教室の拡張、教員の増員、追加募集を行わねばならないほど、英語に対する「熱狂」があったようである。

2. 婦人英学会の結成

この頃、婦人の入会希望者に応える形で、「婦人英学会」なる団体が設置された。

英語学会ニ於テ婦人ノ為ニ英学研究ノ便ヲ開ク由及
広告候處右ハ都合ニヨリ別ニ下山手五丁目（県庁横
手角）廿九番地ニ於テ開会午後一時ヨリ四時迄教授
仕候間入会御希望ノ方ハ同所ニ御申込可被下候

但会頭ニハ米国人女教師一名本邦夫人一名ヲ招聘
致候事

神戸英語学会
婦人英学会

明治十九年十月⁴⁾

10月20日の記事では、会員の申し込み状況と教員が増員される見込みが報じられている。

婦人英学会 下山手五丁目の同会にては入会の申込人追々多く目下三十六名ある由にて此人々は重にも官員方の細君なりとぞ又同会にては更に教師二名を聘する筈なりと⁵⁾

この記事によると、入会希望の多くは官僚や役人の夫人であることがわかる。

婦人英学会も順調に会員数が増加している様子であり、さらなる教員の増員が報じられた。

婦人英学会 此程より下山手に開きたる婦人英学会は爾来会員加盟多く既に四十余名に達したるを以て従来の教員にては不足を生じ更に英和女学校卒業生井上静女を聘用したりと聞く⁶⁾

年が明けて1887（明治20）年の記事においては、神戸英学会の初めての試験の様子が報じられている。

神戸英学会の試験 裁判所前⁷⁾の神戸英学会にては一昨々夜上級生の試験を山手通りの婦人英学会に於いて執行せしが米人アッキンソン、原田助、長田時行の三氏並びに西洋婦人等参観し試験中に時々洋琴によりて奏樂し畢りて一同茶菓を喫し退散したりと之が同会創始以来の初めての試験なりと⁸⁾

記事中のアッキンソンはアメリカンボードの宣教師、原田助は青年会の会長である。⁹⁾ 試験とは思えないほど、のんびりした優雅な時間であったようであるが、神戸英語学会としてはこの頃、組織の変更が計画されていたようである。¹⁰⁾ 即ち、英語学会を発展的に解消して私立学校の設立に向けた動きがあったようである。結果的に設立された学校が「神戸英語学校」となる。

3. 組織の変更

『YMCA』では、『又新』10月2日の記事を引用し、神戸にも英語学校が増えてきている現状に鑑み、学校組織に変更するよう「其筋」より説論があったこと、また、実業家の佐畑信之が学校設立に尽力することを約束した、と記している。

この点について、同書では、「以上の記事は英語学会を改組して一個の私立学校設立に向けて発足することを伝えているが、神戸基督教青年会の自発的事業として英語学会を叙述してきたものにとって若干の戸惑いを覚えさせる内容である。」¹¹⁾

としている。「其筋」の「説論」がどういうものであったのか、青年会やアメリカンボードの理解があったのかよくわからない、というのである。

また、10月2日の記事として、「神戸英語学会は組織を変更して神戸英語学校とする。有志から義捐金を募ることとし、ひと月50銭を一株として、毎月一株以上を援助する者を賛成員とする。一年毎に約定を見直す、毎月八株以上、または一度に50円以上の寄付をする者を名誉会員として、学校の商議員会に出席できる。また賛成員、名誉会員の姓名金額は永久に記録する。義捐金の中から毎月の学校費を補助し、残りは銀行に預け、後日の新校舎建築費にする。この場合の支出は校主と商議員の協議により、年一回の明細を作成し、賛成員、名誉会員に報告する。学校は当分、仮校舎として、元町通四丁目の女子手芸学校内に開設する筈」として詳細な動きを伝えている。¹²⁾

前述の通り青年会は当初、「無謝料にて貧困の人民を教育する」方針を立てていたはずであるが、その精神からすると驚くべき変容である。明らかに「経営重視」の方針がみてとれる。

ともかくも新組織になった神戸英語学校であるが、上記の記事から約一月後に次のような広告が掲載された。¹³⁾

神戸英語学校設立ノ儀出願為セシ處（過）般認可相成タルニ付

此段広告ス

神戸区元町四丁目女子手芸学校内
明治廿年 神戸英語学校
十一月廿四日

学校設立が計画通りに認可されたのである。

この動きは結果的に「失敗」となるのであるが、学校の終焉の話に行く前に、「女子手芸学校」について、述べておかなければならない。

4. 神戸女子手芸学校

神戸英語学校が設立認可される約二ヶ月前に神戸女子手芸学校が設立された。

私立女子手芸学校 客月一日より仮開校せし当区元町四丁目なる私立女子手芸学校は愈々昨日より公然開校（其開校式の時は未定なり）せしが現在生徒二十余名にして右生徒中其他各地より寄宿を望むもの多きに付昨日より望みの者は校内に寄宿せしむる事となしたりと¹⁴⁾

8月1日に仮開校した手芸学校に20名程度の生徒がおり、一部が寄宿望むため、校内に寄宿をさせることを報じる記事である。

この手芸学校について、『三十年史』では、以下の記載がある。¹⁵⁾

明治二十年（中略）九鬼隆義、佐畑信之、関戸由義、野村致知等は、神戸元町四丁目へ神戸女子手芸学校を設け、八月一日以降洋服裁縫、編物、読書、算術、英語を授くる事となし。

神戸英語学校の校主である佐畑信之が手芸学校の設立にも関係している。その他にも、旧三田藩主で維新後に神戸に居を構え、多くの地所を所有していた九鬼隆義¹⁶⁾、初期の神戸のインフラ整備に影響力のあった関戸由義¹⁷⁾など、明治初期の神戸の発展に影響のあった人物が関わっていたのである。

なお、校主である佐畑信之は1847（弘化4）年生まれ、元長州藩士で、本名は中川文吾といい、明治に入ってから佐畑信之に改名した。山口にいる時に大村益次郎に就いて蘭学を学び、明治の初めに鉄道寮、その後10年頃、兵庫県庁に奉職した。その後は実業界に入って神戸電燈会社の社長を務めた。20年には神戸幼稚園の設立に携わるなど晩年には教育界で尽力した。明治

26年に47歳で没している。¹⁸⁾

5. 神戸英語学校の開校

女子手芸学校の(仮)開校から約3ヶ月後の1888(明治21)年1月神戸英語学校が開校した。¹⁹⁾

本校新築中ニ付今般仮リニ生徒五十名限入学ヲ許ス
志願者ハ本月三十日マデニ申込アルベシ

明治廿一年一月

神戸区元町四丁目
私立神戸英語学校

この頃にはすでに新校舎が建築中であり、近く移転する様子がわかる。移転先は神戸区坂本村(おおよそ現在の神戸市中央区楠町から湊川神社の東側)であった。

2月には開校式が行われ、その様子が詳細に新聞紙上にも報じられた。

神戸英語学校開校式

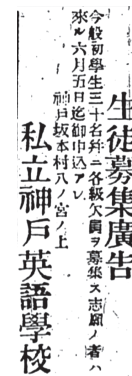
区内坂本村杉田病院の西手に新築中なりし神戸英語学校の家屋は既に落成したるにより明二五日午後二時より開校式を行う由にて本社員へも招待状を送り越せり²⁰⁾

神戸英語学校の開校式

昨日は預記の如く区内坂本村の神戸英語学校に於て午後二時半開校式を挙行したり 式場は其樓上にして同日招待に応じ臨場せし来賓の人々は馬屋原神戸始審裁判所長 太田同検事 野村本県学務課長 佐藤同土木課長 岡部県立商業学校長 矢田績 炬口又郎等の諸氏 同校職員生徒 神戸英和女学校生徒すべて百数十名 最初に英和女学校生徒が讚美歌を誦じ長田時行氏祈祷をなし又同学校創立後の来歴を述べ同校生徒の祝詞並英語誦演ありて最後にアッキンソン氏の演説あり又讚美歌を誦し原田助氏祝詞をなし最後に同校主佐畑信之氏が来賓に挨拶をなし終て来賓を別室に誘ひ茶菓の饗ありし²¹⁾

開校式の出席者には司法関係者、県庁の役人、近隣の学校長、青年会の関係者から、英和女学校の生徒まで参列するなど、各方面から期待が寄せられていたことが窺える。

そして、6月に生徒募集広告が掲載された。



今般初学生三十名并ニ各級欠員ヲ募集ス志願ノ者ハ
來ル六月五日迄御申込アレ

神戸坂本村八ノ宮ノ上
私立神戸英語学校²²⁾

やや遅れて女子手芸学校も同じ場所に移転し、両校が同じ場所で運営されることとなった。そして、9月1日に始業の旨を約一週間前に広告で告知した。

來ル九月一日ヨリ開校英漢学、洋和男女服裁縫編物、刺繡、書画ヲ教授ス且生徒追々熟達ニ付尚今般良教師ヲ聘シ候希望ノ者ハ來学ヲ乞
校則並ニ寄宿規則望ノ方ハ二錢印紙ヲ付シ申込アレ
神戸坂本 女子手芸学校²³⁾

英語学校は「欠員募集」という形で、広告を掲出した。

來ル九月一日ヨリ開校初学生并ニ欠員アル級ニ限り
入学を許ス望ノ者ハ來学ヲ乞
米国人ハウ氏教授日時は従前ノ通り
神戸坂本 神戸英語学校²⁴⁾

この「ハウ氏」は頌栄幼稚園の創立者である、Annie Lyon Howe のことである。²⁵⁾

6. 英語学校の終焉

新校舎へ移転し、華々しい開校式を経てから二年ほどで、下記の記事が新聞上に掲載された。

青年夜学会と婦人夜学会

当港の基督教青年学会は元英語学校の業務を引き継ぎ英語と漢学の教授をなすよしは過日の本紙上に記載し置きしがいよいよ來たる九月一日より神戸青年夜学会と婦人夜学会とを開き成るべく青年なり婦人なり

に適切なる学科を教授するよし さてその場所は坂本村杉田病院の下私立神戸英語学校跡（青年夜学会）と私立神戸女子手芸学校跡（婦人夜学会）なりという²⁶⁾

会員募集広告²⁷⁾

本会 神戸英語学校 ヲ引キ続キ学科ヲ
改正シ商家実用
ヲ旨トシ九月一日ヨリ開会ス 有志ノ諸君至急
入会アレ 研究学科ハ英語、和漢、算術簿記
尚委細ハ事務所ニ就テ承合アレ
坂本村杉田病院下英語学校跡
明治廿三年八月 神戸青年夜学会

会員募集広告²⁸⁾

本会 女子手芸学校 ヲ引キ続キ学科ヲ
改正シ九月一日ヨリ
開会ス有志ノ婦人至急入会アレ 研究学科ハ英語、
和漢、算術、裁縫、編物 尚委細ハ事務所ニ就テ承
合アレ
坂本村杉田病院下女子手芸学校跡
明治廿三年八月 神戸婦人学会

英語学校と手芸学校を青年会が継承し、教授科目も名称も変更するというのである。元の英語学校においては、英語だけではなく、漢学や算術、簿記まで教授する体制をとるというのである。開校から二年の経緯について詳細が不明な点が多いが、後述するように思うように生徒が集まらなかったようである。

さらに、この措置に対して在學生徒の中からも不審、不満の声が出ていた。

生徒中に異論者多し

神戸英語学校は前号の本紙上にも両度記載したる如く今度神戸青年基督青年会の引き受くる処となり旧来の生徒をも併せて新旧引き渡しを遂ぐることとなるが 同校生徒中にはこれに異論を唱ふるもの少なからず明三十日基督青年会の会議にあたり十分意見を陳述し採用せらるれば止まり否らざれば退校せんと決心にて山下悠三 都解圭二郎の両氏を陳述委員に選挙したるよし その異論の主なる点は神戸市にては未だ基督教を嫌うの弊あるを以て基督の名称ある時は志あるものを多く引き入る能わざるべし また之れを夜学会としその教授は従来の如く教師を聘せず青年若くはその他の人が義務にて担当することとなり

ては必ず一夜休み二夜休み果ては休校同様となり十分なる教授は出来ざるべし故に矢張り従前通りに教師を雇い基督の名称を取り除けて広く有志の就学に便すべしと言うにあるよし²⁹⁾

おそらくは神戸英語学校開校後に入学した生徒であると思われるが、「基督教」の名前があるだけで忌避する者がいまだに多いので、学校の名称で入学を避け、有能な生徒が集まらないのではないかと、という指摘である。今、一点は英語学校の内実に関わるものであると思われる。すなわち、正規の教師が教授するのではなく、（おそらくは）教師ではない誰かが授業を担当していたのではないかと、と思われる。正規の教師ではないため、無断で休講をすることも度々あったことが推察される。まとめるならば、「キリスト」の名は学校の名称から除外せよ、正規の教師をきちんと雇え、要求が入れられないならば退学する、というわけである。この後の対応がどのようになったのかは不詳である。しかしながら、英語学校の廃校から十数年程経過した1903（明治36）年、以下の記事が掲載された。

英語夜学校開校

寒中休暇にて休校中なりし神戸基督教青年会夜学校は明日より開校する由なるが従来の教師の外に更に二名の外国人教師を増聘し都合六名の外国語教師と二人の日本人教師とが熱心に教鞭を執ると云う³⁰⁾

記事中の「開校」は新規開校ではなく、冬季休暇明けの再開のことである。1903年時点に置いて、青年会が夜間の英語学校を継続して運営しており、新規に教員を増員するという。

7. 統計上の運営実態

ここで、データをもとに英語学校、手芸学校の生徒募集の状況についてわかる範囲で述べる。いずれも兵庫県統計書に記載された数字である。表は明治21年および明治22,23年分から作成した。³¹⁾

表1 神戸英語学校

	教授者	生徒	卒業生徒	中途退学
M20	2	99	記載なし	1
M21	2	45	記載なし	23
M22	2	55	2	62
M23	2	記載なし	記載なし	72

英語学会も英語学校も修了年限は三年であった。し

表2 神戸女子手芸学校

	教授者	生徒	卒業生徒	中途退学
M20	5	81	記載なし	11
M21	6	75	記載なし	38
M22	6	33	記載なし	75
M23	6	記載なし	記載なし	41

たがって、神戸英語学校の明治20年中の生徒数99名は全て青年会の神戸英語学会の19年度入学の生徒であると考えられる。神戸英語学校の初学年としては、翌21年度の一部と考えねばならない。また、22年度の卒業生2名はおそらくは神戸英語学会時代の最後の生徒が何らかの理由で卒業を繰り越したものと捉えるのが妥当であろう。23年度に至ってようやく、神戸英語学校の卒業生が出るはずであった。

すなわち、神戸英語学校としての卒業生は出すことができなかった、と言わねばならない。それにしても凄まじい数の中退者である。21年度からの増加が明らかである。19年度以前のデータが無いので、英語学会当時の運営体制と単純な比較はできない前提ではあるが、22年度には在学生在を上回る数の生徒が中退し、23年度には新入生がいない状態で、在学生在がほとんど全て退学しまい、学校運営が行き詰まった、と捉えることが十分可能に思える。学校設立当初の義捐金の仕組みや名誉会員あるいは賛成員の制度がどのようになかったのかわかる資料は未見である。

さらに、教師数が2名というのも驚きである。確かに20年度は英語学会としての最終年であり、正規教員以外にボランティアとして青年会関係者が教授をしていた可能性もある。(明治19年時点での教師として名前が挙げられているのは、アッキンソン、デビス、山中夫人であった。)³²⁾

20年度は辛うじて、学校としての機能を果たし得ていたようであるが、経営主体が変わった21年度からは、実質的に学校としての機能を失ってしまったのではないだろうか。その一例が、先述の教師でないものが教授を担当したり、無断で休講が続くなどという事態が起き、現代風に言うと「口コミ」で悪評が広まったのではないかと考えても不思議ではない。

女子手芸学校でも中退者の状況は英語学校と同様、運営形態が変わった21年度から退学者が急増している。手芸学校では、20年度に寄宿希望者が出るほどの募集状況であったにも関わらず、21年度以降、大量の中退者が出ている。こちらも、卒業生を出すことができなかった、と思われる。

8. まとめにかえて

ここで、1889(明治22)年、坂本村での新校舎で開校した頃の神戸英語学校の教授内容を一瞥しておきたい。³³⁾

私立神戸英語学校概則

- 一 本校ハ正則英語ヲ以テ諸学科ヲ教授ス
- 一 当校教授スル所ノ学科課程ハ左表ノ如シ
- 一 学年ハ九月一日ニ始リ翌年七月卅一日に終ル
- 一 一学年ヲ三学期ニ分チ一学期ヲ三ヶ月トス
- 一 当分授業時間ハ午後六時全九時ニ至ル三時間トス但日ノ長短ニヨリ伸縮スルコトアルベシ
- 一 入学セント欲スル者ハ入校ノ時東脩トシテ金七十銭納ムベシ
- 一 生徒ハ授業料トシテ毎月五日迄ニ一年生ハ四十銭二年生以上ハ五十銭ヲ納ムベシ但十五日以降ニ入学スル者ハ半額トス

明治廿二年八月

神戸区坂本村七拾九番屋敷ノ一

私立神戸英語学校

学科課程表

第一年

- 第一期 ウェブスター氏 綴字書
ナショナルリーダー 第一 第二 習字
- 第二期 ナショナルリーダー 第三 書取 習字
- 第三期 ローヤルリーダー 第三 会話 書取

第二年

- 第一期 ナショナルリーダー 第四 文法口授
会話 作文
- 第二期 ローヤルリーダー 第四 会話 文法口授
作文
- 第三期 ローヤルリーダー 第四 会話
スウイントン氏 大文典 作文

第三年

- 第一期 ローヤルリーダー 第五
スウイントン氏 大文典 作文
- 第二期 ローヤルリーダー 第五
スウイントン氏 万国史 作文
- 第三期 スウイントン氏 万国史
マコーレー氏 ミルトン伝 作文

別科 ハウ教師教授教課書未定 速成会話ノ科前期ノ通り

英語学会時代のカリキュラム表³⁴⁾と比べても遜色のないものである。まともな教育体制が整っていれば、と思わずにはいられない。

なお、その後の神戸基督教青年会が正式な学校すなわち「基督教青年会英語学校」を設立するのは、1907(明治40)年のことである。³⁵⁾

注

- 1) 『又新』明治19年4月22日
- 2) 『YMCA』p.59
- 3) 『又新』明治19年6月15日
- 4) 『又新』明治19年7月6日
- 5) 『又新』明治19年10月20日
- 6) 『又新』明治19年11月12日
- 7) 「裁判所前」の文言は『YMCA』でも他日の記事で言及があるが、英語学会の東川崎町からの移転については、管見の限り、記事には見当たらない。
- 8) 『又新』明治20年4月30日
- 9) 『YMCA』pp.56-59
- 10) 同書 pp.68-69
- 11) 同上
- 12) 同上
- 13) 『又新』明治20年11月26日
- 14) 『又新』明治20年9月2日
- 15) 『三十年史 坤』p.509
- 16) 水島「科研費報告書」
- 17) 松田 2017 p.178
- 18) 『吉敷村史』pp.241-242
- 19) 『又新』明治21年1月12日
- 20) 『又新』明治21年2月24日
- 21) 『又新』明治21年2月26日
- 22) 『又新』明治21年6月3日
- 23) 『又新』明治21年8月24日
- 24) 同上
- 25) 『市史 本編各説』p.608
- 26) 『又新』明治23年8月27日
- 27) 『又新』明治23年8月26日
- 28) 同上
- 29) 『又新』明治23年8月29日
- 30) 『又新』明治36年1月8日
- 31) 兵庫県統計書 明治21年 pp.614-615
明治22,23年 p.519
- 32) 『YMCA』pp.61-62
- 33) 原本は古書店で入手した。
- 34) 『YMCA』p.65

35) 『神戸市統計書』p.68

参考文献

<記録>

- 『神戸開港三十年史 坤』(『三十年史』)
開港三十年記念会(編)1898
『神戸市史 本編各説』(『市史』)
神戸市役所(編)1924
『神戸市統計書』明治40年
神戸市役所(編)1909
『神戸とYMCA百年』(『YMCA』)
神戸YMCA100年史編纂室(編)1987
『兵庫県統計書』明治21年
兵庫県(編)1891
『兵庫県統計書』明治22,23年
兵庫県(編)1891
『吉敷村史』(復刻版)
三坂圭治(編)1988 マツノ書店

<著書>

- 『港都神戸を造った男 怪商関戸由義の生涯』
松田裕之 2017 風詠社

<報告書>

- 「志摩三商会に注目した近代神戸の都市形成に関する研究」
水島あかね (科研費報告書 課題番号26420660)
2014-1016

<新聞>

- 『神戸又新日報』

On a Private English Language School “Kobe Eigo Gakko”

Faculty of Liberal Arts, Department of English as an International Language
Takashi SUGIURA

Abstract

The present study investigates when and how “Kobe Eigo Gakko” was established and abolished, and how it was connected to the early Young Men’s Christian Association in the city of Kobe. Actually, the association started in the early Meiji era with a view to providing English language education for the citizens in Kobe.

The organization made an English language education society in 1886, and it started successfully with many applicants and students who want to learn English language. It also organized the learning society for women.

Meanwhile these two societies were overtaken with some entrepreneurs in Kobe and they made these societies into private schools, an English language school and a women’s knitting school. They first seemed to be successful, however they were not able to collect enough applicants and students to sustain the schools. Soon they were almost abolished because of allegedly poor education with many students leaving schools.

These schools were inherited by the Christian association again as night schools.

Keywords: Kobe, Meiji era, English Language Education, Young Men’s Christian Association